

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

霧島山（新燃岳）では、本日（27日）15時41分、1959年以来52年ぶりに爆発的噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上2,500mまで上がり雲に入りました。

本日（27日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）は九州地方整備局と共同で上空から調査を実施し、北側の一部を除く火口周辺で噴石の飛散を確認しました。

新燃岳から2km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石等に警戒が必要です。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

平成23年1月26日に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 1月27日の活動状況

・上空からの調査（図1）

本日（27日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）は九州地方整備局と共同で上空から調査を実施しました。

灰白色の噴煙が1,000m程度上がり、南東に流れているのを観測しました。また、噴煙活動は活発で、火口の北側の一部を除いて火口周辺に噴石が飛散しているのが確認できました。

新燃岳火口周辺と同火口から南東方向に明瞭な降灰の痕跡を確認しました。

・爆発的噴火の状況（図2）

本日（27日）15時41分には、中規模の爆発的噴火¹⁾が発生し、噴煙が火口縁上2,500mまで上がり雲に入りました。地震の最大振幅は新燃岳南西（新燃岳より南西約1.7km）の観測点で3,327 $\mu\text{m/s}$ でした。空振の最大振幅は湯之野（新燃岳より南西約3km）の観測点で39.7Pa でした。その後は小規模な噴火が続いています。

新燃岳で爆発的噴火が発生したのは1959年以来、52年ぶりです。

1) 爆発地震を伴い、空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。

・震動観測

振幅のやや大きな火山性微動は昨日（26日）07時17分から発生し、現在（27日19時）も続いています。

・現地調査

本日（27日）に実施した現地調査では、高千穂河原や御池付近で直径7～8cmの小さな噴石が飛散しているのを確認しました。

※降灰調査は、明日（28日）も実施します。結果については、解析後に公表します。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

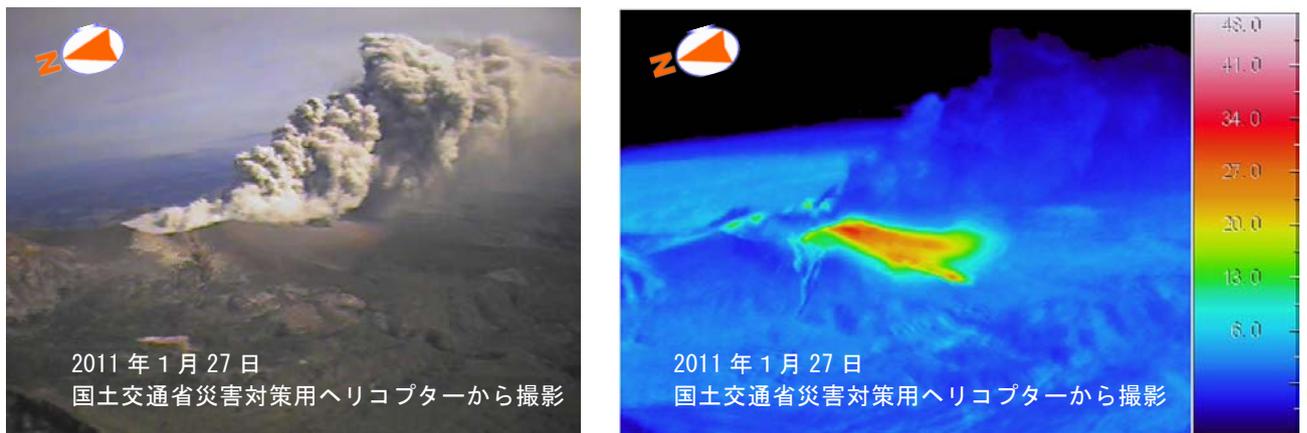


図 1 霧島山（新燃岳）赤外熱映像装置²⁾による火口付近の地表面温度分布
火口外にも噴石が飛散しているのを確認しました。

- 2) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 2 霧島山（新燃岳）大浪池の監視カメラによる映像）
本日（27日）15時41分に中規模の爆発的噴火が発生し、噴煙が火口縁上2,500mまで上がり雲に入りました。